

第 1 1 回教育委員会臨時会議事要録

詳細—教育部庶務課 電話 0 3 - 3 9 8 1 - 1 1 4 1

附属機関又は 会議体の名称	教育委員会臨時会	
事務局（担当 課）	教育総務部教育総務課（現 教育部庶務課）	
開催日時	平成 2 6 年 1 0 月 2 2 日 午後 2 時	
開催場所	教育委員会室	
出席者	委員	渡邊 靖彦（委員長）、菅谷 眞（委員長職務代理者）、千馬 英雄、嶋田 由美、三田 一則（教育長）
	その他	教育総務部長、教育総務課長、学校運営課長、学校施設課長、教育指導課長、 教育センター所長、統括指導主事
	事務局	教育総務課庶務係長、教育総務課庶務係主事
公開の可否	一部公開 傍聴人 0 人	
非公開・一部公 開の場合は、そ の理由	第 4 1 号議案は人事案件のため非公開とする。	
会議次第	第 4 1 号議案	臨時職員の任免について
	報告事項第 1 号	平成 2 6 年度教育委員会後援名義使用の承認状況（第 2 四 半期分）
	報告事項第 2 号	平成 2 7 年度区立幼稚園入園応募者数の報告
	報告事項第 3 号	高南小学校における食物アレルギー発症事例への対応報告
	報告事項第 4 号	能代市への教員派遣団について

渡邊委員長)

ただいまから第11回教育委員会臨時会を開催いたします。本日の署名委員は、菅谷委員と嶋田委員です。よろしくお願いします。

(1) 第41号議案 臨時職員の任免について

人事案件のため非公開

(委員全員異議なし 第41号議案了承)

(2) 報告事項第1号 平成26年度教育委員会後援名義使用の承認状況(第2四半期分)

<教育総務課長 資料説明>

渡邊委員長)

平成26年度第2四半期分の申請は、新規がかなりあったということと、最近の申請状況も踏まえてご報告をいただきました。

三田教育長)

経常的なものが定着してきていると思いますし、文化活動や芸術などを教育委員会にアピールしてもらいたいということのようです。今回、新規の中に、これは何だろうと議論したものがありません。学校は公共施設なので、物の売り買いはできませんということをお伝えしています。

教育委員会が開かれて、こういう名義貸しをして、歴史や文化の奨励に努めるというのは、我々の主たる任務でもありますので、今後も奨励をしていきたいと思っています。

いつも困るのが、団体の中には後援名義をとったのだから、こういうことをしてくれなどという依頼があるのですが、基本的には名義貸しは名義貸しなのですからということで説明を申し上げているのですが、なかなか納得いただけないということもあります。

渡邊委員長)

少し前のニュースで、公共の施設を使いたいから、後援をとりたいとかというような申請が殺到しているの、困っていますということが報道されてきました。ただ単に自分たちの団体名だけで催すより後援がついていると、権威を感じられると考える方が多いと思います。

三田教育長)

教育委員会のお墨つきというのは、ある意味で重みがあるというか、我々も審査をきちんとやった上で出していますので、その辺は間違いのないことだと思います。

菅谷委員)

内容を見ると、それなりの内容というかテーマなのだろうと思います。医師会でも後援して欲しいという声はあります。以前、非常に個人的な小さな学会の後援申請がありましたが、それは断りました。内容を見ると、これではだめというのは余りなさそうに思いま

す。

渡邊委員長)

質問ですが、アニメ関係で後援名義の申請とかというのは、今のところ、出てこないのでしょうか。

教育総務課長)

アニメに関する後援名義の申請は見たことないです。どう判断するか難しいですが、アニメだからだめとも言えません。トキワ荘の関係もありますし、アニメイトの関係だとか、今度、ニコニコ動画の本社が池袋へ来ることもありますので、教育という立場からも考えていく必要があると思います。

渡邊委員長)

では、これに関しましては、よろしいですか。

(委員全員異議なし 報告事項第1号了承)

(3) 報告事項第2号 平成27年度区立幼稚園入園応募者数の報告

<学校運営課長 資料説明>

渡邊委員長)

来年度の区立幼稚園の入園者応募者数の報告をいただきました。西巢鴨幼稚園は、募集枠よりも多い応募数があった一方、南長崎幼稚園に関しては、その逆であったということで、枠が残ってしまっているようです。

昨今、幼稚園に対する保護者の要望がかなり強くなってきている中で、区立幼稚園においては、それだけの人材とか人員確保ということにも限度があると思います。私立ほど柔軟には対応できないということもあり、大変な状況だと思います。

三田教育長)

事務局の中でも議論しましたが、平成25年度から本格的に預かり保育をやってきて、いつとき、入園の低落傾向にあったのが挽回できました。油断をしていると、希望者が減ってくるという危惧があります。10年後の人口の推計予測を見ると、子どもが急激に減り始めて、学校の教員採用も急激に減ることになります。教員採用の課程を設置している大学はどんどん整理・統合していかないといけないという文科省からのデータも提供されています。

今のままだと、私立幼稚園も公立幼稚園も、保育園に特化してきてしまって、幼児教育が一面的になっていくのではないかと非常に心配しています。そういう問題意識が幼稚園現場や事務局の中にもあるのか、私はちょっと気になっています。私立の幼稚園との連絡会が、いつも入園募集の直前にありますが、そこでいつも、豊島区の公立幼稚園は私立幼稚園の附属機関である、みたいなことを言われるのです。それは違いますと言い、私たちが幼児教育のモデル事業を推進し、質の高い教育をやっていくということを説明して、路線を切りかえてきています。ただ、そう言っている割には、抽選になるぐらいに人気があるわけではないのは何が問題なのかを、学校運営課長から、見解について説明して欲しい

です。

学校運営課長)

預かり保育を導入しまして、午後4時50分まで預かれるのですが、在園している保護者に対してのアンケートですと、この時間でちょうどいいという人がほとんどでした。ただ、これから入園しようとする子の保護者にとっては、果たしてその時間でいいのかというところの分析まではしていません。そうしますと、その時間が変わることによって、応募しようかと思う保護者が出てくるかもしれませんので、そういったことも踏まえ、検討しなければいけないと思っています。人事上のいろいろな問題はありますが、これから区立幼稚園に入園を考えて子どもを多くしていくためには、その一つの対策になります。

教育課程については、ほかの保育園と違う部分についてアピールをしていく必要があると考えております。また、区立幼稚園の場合は、特別支援を必要とする幼児の受け入れをさせていただきます。それに対する評価というのは、深いものがあると思っておりますけれども、それに対する体制の充実というのも、年々、手当てをしてきております。

教育総務部長)

もともと区立幼稚園は、発足が昭和40年ぐらいで、1年保育から始まっています。今の私立幼稚園のほとんどでは3歳の誕生日を過ぎたら預かれるようになっていきます。今回の南長崎幼稚園の数ですが、保育園課に聞くとこの近辺は待機児童が少ないとのこと。幼児数が少ないというのもあるとあって、南長崎幼稚園は応募数が少ないという要素があるのだと思います。特別支援を要するような子どもについては区立幼稚園に集まってきていて、今後、どういう形で区立幼稚園を発展させていくのか、認定こども園の問題や今回の教育ビジョン2010の改定もありますので、一定の方向性を示したいと思います。

嶋田委員)

私は、音楽教育に携わっておりますが、幼児教育の研究もずっとしてきて、たくさん幼稚園や保育園を見てきました。今、1園とおつき合いをしていて、学生も行かせて、私も何度か拝見していますが、園としての教育目標をきちんと掲げて、それについて綿密に計画を立てて、どういうところを一人ひとりにきちんと生かされているかということ振り返って、すごくよくやっていたらいいなと思います。公立ということで、その限られた施設の中で、すごくよく頑張っていたらいいなと思います。

ですが、圧倒的に3歳児の問題は大きいと思います。延長がどうのこうのというのは、お母さんたちの意識の中にはなくて、幼稚園に行かせる保護者というのは、ある程度子どもに接する時間がきちんと確保できているので、1時間延長があったとかということではなくて、やはり3歳から子ども同士のコミュニケーションがうまくできなくて、そのまま幼稚園に入ってもうまくできなくて、小学校に行っても不安感があるのだと思います。3歳児がないというところが一番大きな違いだと私は思いますし、難しい問題です。

でも、見させていただいている幼稚園では、運営される方たちも、親御さんに対しものすごく上手にケアされていて、ホームページでもきちんと情報を発信していると思います。

す。ホームページを更新して情報を発信することはメリットになっていると思いますし、若い保護者に向けて、上手に発信していくことを考えていければ良いと思います。

三田教育長)

政府が女性の社会進出を後押しして、人材活用を積極的にしていくという施策をとればとるほど、幼児教育というものが保育園化していきます。いやが応でも働かざるを得なくなるという一面と、働きたいという一面の両方が出てきて、幼稚園教育、しかも3歳がなくて4歳に飛ばしてやっている幼児教育というのは、魅力が全然ありません。内向きになっていてアピールもせず、人手もないから、ホームページもつけれないのです。新しい時代に幼稚園教育をどのように照準を合わせていくかということ、教育委員会が考えなかったら、自然淘汰されていきます。恐らく私立の幼稚園も含めて、私は、今後10年の間に閉園する幼稚園が出てくるのではないかと考えています。

そういう中で、区立が存在する意味を考え直していかなければいけないと思います。ある地区では、公立幼稚園を廃園にし、幼児教育はどうぞ私立がやってくださいという流れになってきています。豊島区が10年後にどうなっているのか、日の目を見るより明らかです。私は、そういうことに照準が全く当たっていないことについて大きな危惧をいただいています。新しい幼児教育施策も打ち出して、一元化の方向で動こうとしているときに、幼児教育の施策全体を区としてこうやっていくという考え方もありません。それは教育委員会の課題です。

人事異動についても、区内に3園しかないため、異動も余りうまくいっていません。今までは兼任園長として、校長先生が兼任していたので、まだ専任園長の歴史が浅いです。だから、営業戦略を持って、自分の幼稚園をどうやって発展させるかと考えてやっていけないといけません。隣接校選択制もある意味では校長先生が緊張感を持っているから、何とかこれはできているのです。

幼稚園要領と保育指針が同じ方向性をたどっているとはいっても、やっていることは同じ方を向いているというわけではありません。もう少し時代を読んで、先取りするような検討会を教育委員会から提案していくべきです。こういった募集状況ということですが、取り組みの結果が数字に反映されているのだという認識で、私たちもやっていかなければいけないと思っています。

学校運営課長)

私たちは、園長先生方とこれまでもいろいろと協議を重ねてきましたが、このような結果を受けまして、真剣に協議して、応募者が増えるよう努力してまいります。

三田教育長)

3園のホームページは現在、どうなっているのですか。

教育指導課長)

3園は、CMSという新しいシステムで、毎日、何かしらの記事をアップしています。

三田教育長)

この幼稚園だったら、うちの子を託したいと思ってもらえるようなアピールをしていかないといけません。それは重要なポイントなので、一つひとつの情報発信をどうするかということは、各園任せではなくて、所管課が指導課と連携して、どうやってアピールするかというのをぜひ話し合ってもらいたいと思います。

渡邊委員長)

応募率のような数値は算出されていますか。

学校運営課長)

今はそのような数値は算出していませんが、西巣鴨幼稚園では、保護者の相談に乗るような機能を有しておりまして、日ごろから、来園される方がいると聞いております。それがどういう状況かについて今後、把握をいたしまして、それが実際の応募者数にどういふふう反映しているかについて、分析をしてみたいと思います。ご指摘ありがとうございます。

渡邊委員長)

過去に聞いた話ですが、区立幼稚園は応募しても入れないと思ってしまう人がいて、そういう人は最初から応募をしないとのこと。また、私立は、区立より先に結果がわかるから、入りやすいということも聞いたことがあります。

嶋田委員)

今は、それはないと思います。

渡邊委員長)

以前は、区立幼稚園は募集人数が少ないので、入りたいと思ってもなかなか入れないとのことでした。後になってから、その枠に空きがあっても、私立幼稚園に既に決まってしまうので、そちらに入園をするといった時代がありましたということです。

菅谷委員)

幼稚園の教育を受けて小学校に入ったとき、幼稚園教育が、どのように小学校の教育に結びついていくのでしょうか。また、保育園を出て小学校へ入った子どもとの間に差はあるのでしょうか。何か差があるのであれば、幼稚園教育というものの意味がすごく出ていると思います。そうでないと、今の保護者にとっては、自身の労働環境といった問題から、保育園のほうが便利だと感じるはず。便利さについては、幼稚園の場合アピールする部分がちょっと弱いと思います。幼稚園教育が何を目指していて、その教育の成果が小学校に入ったときに十分あるというようなことが、もっとわかると思います。

また、私立幼稚園に入園させる人たちが何を目指していくのかというと、一つは、上につながっていくから入園させるという考えがあると思います。このように、私立幼稚園の方に人が集まっていく何らかの理由があるはずなので、それを分析して、区立幼稚園の役割ということを考えていかないと、なかなか区立幼稚園の入園者数を増やすことは現実には難しいと思います。

さらに、少子化という問題は非常に大きくて、子どもがどんどん減ってきています。そ

の中で、全体の体制をどのように縮小していくのかとか、少し先の問題ですが、今からいろいろと考えていかなければいけないと思います。幼稚園教育が小学校の教育とどれだけうまく結びついて、そこに何か成果が生まれるのかということ进行分析してみると良いと思います。

嶋田委員)

菅谷先生がおっしゃったことは、本当に難しい問題です。校区の中にある小学校と幼稚園とをよく考えると、幼小の連携がまだ薄いと思います。全国で進んでいる幼小連携と比べると、まだ全然進んでいないと私は思っています。

先生が一つの活動を、幼稚園の教育活動としてどのように見るか、小学校の教科の活動として見るか、一緒の場で子どもたちの実態を両面から討議できる場を持たないと、うまくPRできるだけの幼小連携にはなりません。その校区の小学校に上げる保護者にとっては、幼稚園からずっとつながるいい教育を受けさせられると思うので、これは良いPRになっていくと思います。

教育指導課長)

幼小中の連携は、教育指導課でも非常に大きな課題だと思っていまして、3年ほどになりますけれども、幼小中の連携プログラムをブロックごとに作成しようということをやっております。毎年研究をして、プログラムや研究報告書等を作成しているのですが、保護者にまでなかなか浸透していないというのは確かにあると思っています。近くの小学校、中学校とも連携していることがあります。中学校の教育の様子を、幼稚園の先生たちが見ていらっしゃるの、本区の非常に大きな強みですので、今後、もっとアピールしていかなければいけないと思います。

三田教育長)

教育に大きな流れをつくっていく上で、幼児教育が担わなければいけないことに、言語認識の領域がひとつあります。知的でいろいろな学習課程につながっていくわけですが、幼児期というのは、母語としての感性を通して感じるとかというのが基盤にしっかり座っています。その一番やわらかい時期に、保育士や幼稚園教諭が言語指導を行われているかが重要です。

もうひとつ、人間関係といったソーシャルスキルに当たる部分で、人と人が関わったり、自然と関わったりという関わりの部分が保育中心になっていくという意味では、保育園の方が、長い時間、朝から夜までみっちり集団生活を行っていますので、ソーシャルスキルという面では、幼稚園は圧倒的に負けています。幼稚園が預かり保育をやったことによる一番の成果とは、通常の午前中やる教育とは全く違った側面があります。その辺の実際の成果をアピールしていく必要があると思います。

今の子どもたちは、言葉より手が先に出るというのは、ソーシャルスキルの部分、つまりは耐えたり、仲よくしたりして人間関係をつくっていくことが、すごくおもしろいことだ、自分の世界を広げることだという発見がないからだと思います。家庭教育との連携は

必要ですが、それが今の日本ではうまくいっていないのではないかと思います。それをどうするかというのは、施策としても打ち出していないといけないと思います。

量的な保育だけでは、いまの時代、通用しないと思います。少子化であればある程、子どもの能力をどうやって高めるかと、親は真剣に考えますから、それに公立が応えてくれているかどうかというところを見ているわけです。そういったことに応えるためにも、園長先生も、研修等を通じて、職員をどのように育成していくか、もっと志を高めていける方向性をとっていく必要があります。

教育指導課長)

研修につきましては、区の幼稚園の教育研究会というものを月に一度開催し、必ず皆さん集まって受講しています。特に幼稚園経営の部分に関しては、中央区で園長をされていた先生に、アドバイザーということで、必ず入っていただいて、教育の内容だけではなくて、経営という面でもご指導をいただいております。

渡邊委員長)

難しい問題ですが、大事な部分ですし、豊島区における幼小中の連携という側面から考えると、きっちりつなげていただきたいと思います。応募者数がどっと増えるようになってくれればいいと思って応援しております。

(4) 報告事項第3号 高南小学校における食物アレルギー発症事例への対応報告

<学校運営課長 資料説明>

渡邊委員長)

食物アレルギーが発症したということでのご報告をいただきましたが、幸いなことに、お子さんは元気に通っていらっしゃるということで、よかったですと思います。

嶋田委員)

2学期から解除の指示が出ていたから、学校では、除去食の対応をしていないということですが、ご家庭ではどうなのでしょう。

学校運営課長)

家庭で、大豆あるいは乳製品を除いていないかということについては、直接、確認はしておりません。主治医からの指示で、家庭での食品についても、通常、同じような方法をとっておられると思いますので、恐らく除去はしないようになっているのではないかと推測いたします。

医学的な原因につきましては、今のところ、何が起こったかというところははっきりしないところがございます。ただ、食物依存性の運動誘発的なアナフィラキシーではないかということもありますので、通常ですと、食事をした後に、急激な運動によって、アナフィラキシーが発症するということがあると聞いておりますので、その辺を含めて、昼食後の運動についての対応を備えなければいけないと思っております。

教育指導課長)

私は、直接にA小学校の校長先生と話しましたので補足させていただきます。この2年

生の子どもにつきましては、生まれたときから食物アレルギーの症状がひどくて、大豆、乳製品以外に、小麦やアーモンドなどについてもアレルギーの傾向があるとのことで、専門の医者にも、小さいころからずっと通っていたそうです。その医者の見立てとしても、こういうものを全部除去していくと、食べるものがほとんどなくなってしまうので、例えば、乳製品であれば、少量のヨーグルトをあげてみて、様子を見るというようなことでずっと対応してきたのだそうです。学校では、2学期から大豆が解除になって、少し食べさせてもいいという医者の見立てが校長のほうへ、親を通じて伝えられたということだったので、この日の昼食に麻婆豆腐が出ていました。

運動が原因かどうかということについても、心臓に負担がかかるような激しい運動なのか、負担のかからない通常の動きで、こういった症状が出るのかということについては、専門の医者にしても、なかなかわからないというのが正直なところらしいです。

学校では今後、4年生で秩父、5年生で山中湖と宿泊行事もあるので、大変心配しています。学校としては、給食除去食ではなくて、お弁当をとということもあつたそうですけれども、保護者が大変な熱心な方で、本当はB小学校が通学区域のところ、やはり丁寧な対応をしてもらえると、少人数のA小学校に通っています。そういうような経緯もあり、また、熱心な保護者でもあるので、校長としても保護者といろいろやりとりをしながら、細心の注意を払って給食を出していたのですが、医師の指示どおり対応したにもかかわらず、今回、こういうことが起きてしまったということです。

担任の教員については、東京都が行っているエピペンを実際に打つ講習会に参加をさせますし、ほかの教員についても、情報を共有しています。子どもにとっては、給食と一緒に教室でとることが非常に大事なことなのですが、万が一のことが起こってしまったからでは、取り返しがつかないので、そのあたり、今後の対策について詰めていきたいと、校長はおっしゃっておりました。

三田教育長)

都市部での事故があつてから、文科省を含めて専門家会議が何度か開かれていて、マニュアル化もされています。その中で、医者の指示と家庭の了解、学校の体制のトライアングルできちんとチェックし、大丈夫だということで、除去食の徹底をやっています。

菅谷委員)

今回の件も、エピペンを使われたというのが非常に良かったと思います。エピペンを使う様々な条件等を、学校では普段から理解されていたということです。エピペンを使用する可能性があるということ、当然、学校に知らせていたため、使いやすかったと思いますが、結局、使うかどうかということにおいて、先生が一番気にされていることは、もし何かほかのことが起こってしまったらどうしよう、ということです。エピペンを使うということに踏み出すのが結構大変なのです。しかし、ここでエピペンを使えたというのは、豊島区の学校現場でエピペンの使用について、皆さんがよく理解されているということの証にもなるのではないかなと思います。

食物アレルギーはとても多くて、乳児期は非常に多いのだそうです。しかしそれは、成長するに従って徐々に軽減していくようです。

本当に強いアナフィラキシーですと、食事をとり、すぐに症状が出てしまいますが、今回はアナフィラキシーショックの形が比較的軽症だったと思います。

学校運営課長)

今までは、文科省のガイドラインがありまして、学校ではそれに基づき、対応するように勉強してきました。昨年、東京都では非常に時系列の細かなマニュアルを作成しました。校長先生方を通じて、それを周知しましたし、昨年の7月には、医師会館での研修も行いましたので、その成果が出たのだと思います。

教育指導課長)

補足なのですが、校長先生からの情報ですが、保護者からは、何か症状が出た場合には、まず、アレジオンを飲ませてくださいとのことでした。アレジオンを飲ませても効果がすぐに出ない場合には、10分たって、エピペンを打って欲しいという依頼がありました。校長は今後、主治医に直接お会いをして、今後どういう対応していくかということをお母親も交えて、詰めていくという話をされていました。

三田教育長)

固有のアレルギー疾患があるのだとしたら、その確認をきちんとしてほしいです。食後は体育を入れないなど、学校内での対応はできると思います。危機要因になっている要素を潰していくということ、家庭と学校、医者との間で、きちんと理解しておくということ、これを原則にしてもらいたいです。

菅谷委員)

運動の種類や、食後から運動までの時間も発生の要因になります。食べ物の抗原、アレルギーの量とか種類とか、それは当然ですが、疲労や寝不足、風邪といったこともあると思います。ほかにも、気象条件やストレスなどがあります。そういった運動以外の環境的な部分も広い意味では影響してきます。そういうものが混ざり、起きてしまうのだと思います。完全に起こさないようにするのは難しいので、起こったときに、すぐに対処できるかというのが非常に大事です。

アレジオンというのは、花粉症でも使う抗ヒスタミン作用とアレルギー作用を持った内服薬で、よく使用されています。なかには1年中飲んでいるような人もいます。眼科では、アレジオンは今まで適用がなかったので使いませんでした。昨年、点眼薬ができました。私も使いますが、そういう薬というのは、ものすごく効くということではないです。ずっと使っていると、症状は明らかに良くなります。

ですから、症状が出たときにアレジオンを飲むことは、悪くはないですが、それで症状が抑えられたのかどうかということがあります。

三田教育長)

アレルギーで除去食を取っている子どもの数はどのくらいですか。

学校運営課長)

除去食対応の児童・生徒数は、小学校で209人、中学校で43人の合計252人です。

三田教育長)

アレルギー体質にはいろいろなタイプがあるので、学校がそれぞれにきちんと対応できるように注意喚起をして、指導を徹底してもらいたいです。

渡邊委員長)

アレルギーの除去食をとっている生徒数がとても多くて驚きました。今、お話に出たことを現場で生かせるよう、よろしくお願いします。

(5) 報告事項第4号 能代市への教員派遣団について

<統括指導主事 資料説明>

渡邊委員長)

秋田県能代市への教員団の派遣についてご報告がありました。ご質問等がありますか。

三田教育長)

派遣団員のうち3名については、私たちよりも先に行っていて、最終日である13日に研究授業をやって一緒に帰ってきました。この3名については、本区の授業改善のリーダーとして、末永く豊島区で活躍してもらおうということを前提に、面接をして派遣をしているという教員です。この派遣のあと、自校で頑張るのはもちろんですが、同じブロックや近隣の小中学校へ行って、授業で活用してもらえそうな体制づくりをしっかりとやってもらいたいです。そうでないと、派遣の意味が無いと思います。

10月27日に、能代市の議員の皆さまがお見えになります。事務局も入れて、10人です。学校の特色について、実際に議員の皆さまも見てみたいということでした。本区の2会派が昨年、今年と2年にわたって、政務調査の一環で、教育連携の内容について、能代市に行っております。防災協定も結んでおりますし、教育連携の連携書も交わしているということで、能代市との3年間の足跡は非常に大きなパイプになってきたと思っております。

現地の能代市の職員の中から、豊島区だけではなく箕輪町も、今年は5人がいらしたと言っていました。ほかにも、長期で先生が沖縄から派遣されているとのことで、受け入れるほうからすると、フレンドリーで一生懸命やってくださっているのですが、中にはそういう派遣で来られることが非常に負担だと感じている先生もいて、説得に当たっていると話されていました。

私は一方通行のラブコールではだめだと思っていて、お互いにウィン・ウィンでやっているということをアピールしていかなければいけません。そうでないと、長続きしないと思います。ですから、向こうの学校に、現地の学校に丸投げではなくて、自主自立で行って欲しいです。

議会では、こうした取り組みをアピールできるかどうか予算化につながっていくと思えますし、人材育成と合わせて、生命線だと思っています。

菅谷委員)

連携したことによって、何かの成果が見られるという形でないと、長続きしないと思いますので、それを念頭にやっていただくといいと思います。

三田教育長)

10月27日、本区にお見えになる能代市議会議員の皆さまには二つのことをアピールしたいと思っています。一つは、栄養教諭を一人派遣し、食の安全とか食の文化について、独自の研修を現地でやってもらいました。あきたこまちを給食に生かしていくということで、今現在どのくらいのあきたこまちを使用しましたか。

二つめに、目白小学校で能代産の秋田杉を使っています。総額どのくらいであったのかと、今後の学校改築でも生かしていく予定になっているのでしょうか。

学校運営課長)

あきたこまちにつきましては、手元に各学校の使用量についてのデータがございませんので、次回お示しさせていただきたいと思います。

学校施設課長)

目白小では、傘立てと正面玄関、図書室の書架にも使っていて、600万円分の能代杉を使っています。池袋第三小学校も同様に計画をしていますし、その後の改築予定の学校にも可能な限り調達します。

三田教育長)

杉は香木であり、杉の木を使った建物にいと、心がすごく落ちつきます。図書室では一番心穏やかに本にふけてほしいということでもうまく使われていると思います。

教育総務部長)

この間の施設見学会に来ていた議員が、図書室の杉の香りがすごくよかったと言っていました。

渡邊委員長)

教育連携の成果は、保護者、生徒、児童たちにとって、よくわかっていない部分があるので、成果や目標に関する周知については、どのように考えているのですか。

統括指導主事)

学校によっては、生徒会の役員をやると、能代市に行けるということで、能代市に行きたいから生徒会に入るという声が上がっている中学校もあります。そのような取り組みをやってくださっている学校もあります。

また、教育だより豊島のなかで、夏に能代の中学生が来た内容を、保護者に対して写真つきで紹介をさせていただいています。今後も、積極的に成果等を伝えていきたいと思っています。

さらに、本年度は南池袋小学校では、校長先生には平成25年に派遣団として能代市へ行っていただきまして、そこで得たことを授業に取り入れました。学校全体でそういう意識を持って取り組んでくださっているというのは、一つ大きな成果なのだと思います。今

年度、派遣団を選ぶ際にも、今まで行っていない学校からなるべく推薦を挙げていただいて、1校でも多くの学校に能代市のよさというのを伝えていきたいと思います。

(委員全員異議なし 報告事項了承)

渡邊委員長)

本日の案件は全て終了いたしましたので、閉会とさせていただきます。

(午後4時 閉会)